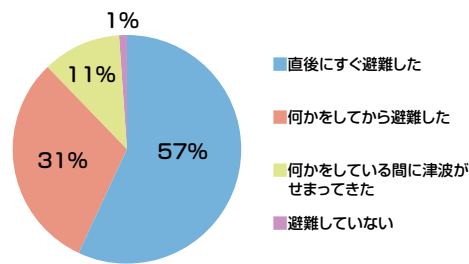


さいがい 大きな災害と人間の心の動き

私たちは、日頃、少しぐらい変わった出来事が起きても、それを異常なこととは考えない傾向があります。このことは、災害が起こったときにもあてはまります。たとえ大きな災害があっても、人間の心は「このくらいは大丈夫だろう。」と考えてしまいがちなのです。このような心の動きを理解し、いざというときにどう行動すればよいかを考えておくことが大切です。

1 東日本大震災が起こったときの避難行動

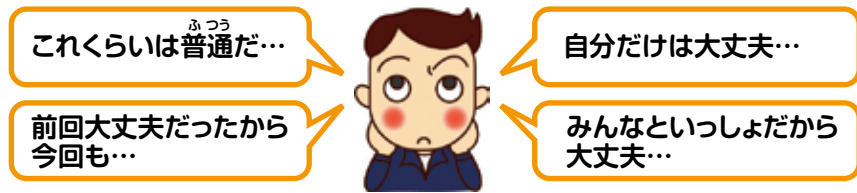
「大きな地震が起こって、あなたの住んでいる場所に津波がやってくるという情報が流れたらどのように行動しますか」と聞かれば、だれでも真っ先に「避難する」と答えるでしょう。



東日本大震災における避難行動
対象：岩手・宮城・福島県内避難被災者870名
(出典) 中央防災会議専門調査会

しかし、東日本大震災のときも、過去に起こった大きな地震のときも、次のような考えから、すぐに避難しなかった人がいます。

- 自分がいる場所は危険ではないだろう。
- 以前に警報が出たときも大きな津波は来なかったから大丈夫だ。
- 地震でちらかったものを片づけてしまいたい。
- 様子を見てから避難しても大丈夫だ。



私たちは大きな災害が起こったときも、「大変だ」と思わずに、「このくらい大丈夫」「自分だけは大丈夫」と思って、心を安定させよう

とすることがあります。このような人間の心の動きは、いざというときの素早い避難行動のさまたげになります。

逆に、「みんなと一っしょに行動したい」という気持ちも働くことを考えると、だれかがまず率先して避難すれば、みんなが避難できるとも言えます。

災害時に働く人間の心の動きを理解し、自分がどのように行動しなければならないかを考えておくことが大切です。

2 災害時に伝達される情報との向き合い方

災害時には、困っている人が必要な情報を求めたり、困っている人を助けようとしたりして、様々な情報が流れます。

次の文章は、東日本大震災の直後に、多くの人々に流れたメールの内容です。(一部を変えています)



A石油工場に勤めている方からの情報です。できるだけ多くの方に伝えてください。地震による石油工場の爆発により、有害な物質が雲などに付着し雨など一っしょに降るので外出の際には「傘」か「カッパ」などを持ち歩き、体に雨が付着しないようにしてください。このメールを転送してみなさんに知らせてください。ご協力よろしく願います。

事実とちがう「チェーンメール」(受け取った文章の転送を求めるメール)を多くの人が転送してしまうと、その結果大切な情報が流れにくくなってしまいます。

しかし、実際には、多くの人が不安な気持ちから、このメールを家族や知り合いに転送してしまいました。

? 考えよう

- 災害時に流れる様々な情報とどのように向き合えばよいのか、話し合ってみましょう。